

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』 1F青天		
所在地	〒851-0115 長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型GHの事業所として自治会・近隣の学校・保育園・同業者の交流を深めて少しずつでありますが高齢化時代でのGHの役目を地域に溶け込むように努力しています。今後も更に利用者が地域と関われる住みよい環境を目指して各関係者の支援を仰ぎ全職員で努力して取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、長崎市東部の住宅団地入口に位置し、海にも近く眺望に恵まれている。利用者を支援するために家族との協力関係を構築しようと家族会や無記名のアンケートなど取り組みを行い、意向や希望を聴取し改善すべき点を検討し、家族の信頼を得ている。また、運営推進会議では、ヒヤリハットや事故を分析集計した報告を行い、利用者のために家族や外部に開かれた透明性の高い事業所を目指している。そのような長年の努力によって利用者の外出・外泊など家族と一緒に取り組むことができており、なにより利用者・家族がホームで看取ってほしいと希望していることは信頼の証と言える。施設長はじめ全職員が運営推進会議や外部評価の結果を真摯に受け止め、職員会議やミニカンファレンスなどで検討し取り組んでおり、災害対策の地域連携では市の防災担当者に指導を仰ぎ、ホーム周辺のハザードマップを作成するなど、まだまだ進化が期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年11月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の表示を玄関・フロアの見やすい場所に掲げて職員の意識付けをして、理念の精神にのっとり取り組んでいる	開設当初に作成した理念「いっしょに、いつも、いつまでも」は玄関やフロアの目視できる場所に掲示させ、管理者と職員は共有し合い、重度化した利用者に対しても個別ケアで理念の精神に則り、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入っており、清掃活動や地域での行事にも招待をうけ、参加して交流を図っている	事業所は地域の清掃活動やくんちなど催し物に参加している。地域の方を招待してお茶会を催したり、小学校の職場体験の受入れや夏休みに中学生によるピアノ演奏会、保育園児とのクリスマス会など地域との交流を継続的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に入居者と職員で参加したり、地域の同業者間でも入居者・職員との交流を深めて、認知症への理解を促し情報交換をしている。また、地域の学校の職場体験についても、受け入れ態勢はできている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回会議からの活動内容や利用者の状況を報告して意見や要望を受け、サービスの質の向上に活かしている。	2ヶ月に1回規定のメンバーで開催され、実例を議題にあげ実施している。利用者の様子、ヒヤリハットや事故報告、災害訓練の働きかけ、外部評価の報告をしている。良いことも悪いことも含めて話し合い、参加者から出たいろいろな意見は改善に向けて取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度運営推進会議をしており、市町村担当者にも必ず参加していただき、現状を伝え協力を頂いている。	市のすこやか支援課には、ヒヤリハットの事故について電話で報告したり、訪問して相談するなど連携を深めている。事業所が主体として地域防災対策を検討し、市の防災管理室担当者を講師に招き、防災ハザードマップ作成している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという事をすべての職員が理解し、ケアに取り組んでいるが、交通量の非常に多い場所に施設がある為、安全上、やむなく玄関を施錠しています。	言葉による拘束も含めた身体拘束に関する勉強会を実施し、日々職員同士振り返っている。安全を優先しベッド柵を希望する利用者もいるが、自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを説明し理解を得られるよう努めている。現在、交通事故の防止から玄関は常に施錠している。	玄関の施錠がもたらす利用者の心理的影響等を考え、抑圧感のない暮らしの支援のため、繰り返し検討し工夫されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には虐待をしないという意識が定着しており、利用者への虐待行為は見られない。また、入浴や衣類着脱時にも利用者の身体状態を観察・確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての相談は受けていないが、今後、勉強会・研修などで支援体制が出来るようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書に従い説明をして疑問点については、理解していただけるよう、時間をかけて説明をしている。解約、改定時についても同様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名でアンケートをとり、家族からの意見・要望などを提出していただき、職員にも公開して、今後の課題については、常勤会で話し合っている。	家族向けに無記名のアンケートを実施し、意見や要望を職員会議で検討している。その結果、面会時には職員から挨拶をして話しやすい雰囲気を作り、また外出の希望には屋上で外気浴をするなど改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に常勤会やユニット会議をしており、職員の意見交換をして、問題解決に向けて努力している。	毎月1回常勤者会議、必要に応じてミニカンファレンスやフロア会議を行い、きざみ食やケア方法など職員の意見を取り入れ支援につなげている。管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、勤務調整や緊急連絡網の再検討、外部研修会の参加など職員の意向を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得した職員には、待遇改善を図るなど環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じた研修が受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会に参加し、行事の際は相互訪問をしており、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、本人との関わりの中で、常に体調の変化や言動に関心を持ち対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の様々な問題に関しては、必要に応じて連絡を取ったり、来所時にも日頃の様子などを伝えて、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題がある時は、本人と家族の意向を大事にしながら、他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物理的に無理なこと・危険なこと以外は、本人の意向に沿える生活が出来るよう、支援している。簡単な作業など申し出があったときは手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や病院受診など、本人がより安心できると思われるときは、家族にも同行していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出の折には、自宅に戻られたり親戚を訪ねることもある。ホームにも家族・親戚の面会以外に、信仰するお寺や教会から訪問していただいている。	家族と自宅へ外泊や以前住んでいた場所へ外出する利用者や、信仰している寺や教会の牧師の訪問がある利用者など一人ひとりの生活習慣を尊重している。以前住んでいた場所の友達や家族・兄弟の訪問も多く、趣味の囲碁や将棋、吟詠大会をするなど継続的な交流が出来るよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者が居室に閉じこもる事がないよう心掛けている。声掛けをしてみんなで楽しめるようなレクリエーションを提供したり、共通の趣味を持つ入居者の交流ができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も今までの信頼関係を保ちながら、いつでも気軽に声をかけていただけるような雰囲気づくりに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の言葉や行動、表情などを見守りながら職員同士で検討し、本人本位の思いや希望の把握に努めている。	職員は利用者との日々のかかわりの中で声を掛け、利用者の言葉や表情などから意向を推し測っている。夜間帯1対1になれる時間に家族も知らない情報を得ることもあり、記録に残し共有している。意思疎通が困難な利用者は家族や関係者から情報を得て本人らしい暮らしができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴、馴染みの暮らし方をご家族に尋ね、ご家族の意向も汲み入れながら、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、健康チェックを行い、本人の生活リズムを把握し、本人のしたいこと、又、出来る事をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士の話し合いの場を設け、気付きや家族の要望等も取り入れ、その人らしい生活が出来るように介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族の希望を日頃から聞き反映し、長期・短期の目標を立て6ヶ月に1回見直し、必要に応じ適宜見直しが行われている。毎月行われる常勤者会議、ミニカンファレンスなどで個人記録を基に現状に即した介護計画を立てている。ただし、職員の日常の支援と介護計画が連動していない。	利用者支援の基礎となる介護計画を職員が理解し、毎日の支援と計画が連動する取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付き等を、毎日記録し、その人らしい生活が出来る様、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考慮し、無理のないよう話し合い、出来る限りのサービス、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(ペーロン・大石様祭り)等、参加している。又、運営推進会議などでは、地域包括支援センターの職員や民生委員の参加があり、協力関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応での受診が困難な場合には、ホームで対応し協力している。	以前からのかかりつけ医を継続して受診している。家族が受診支援を行う場合も職員が同行し、状況を伝えて結果を記録し把握している。運営は医療法人であり、往診にて利用者の健康管理に努めており、夜間や緊急時は医療連携の医療機関へ搬送するなど適切な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を行い、利用者の体調の変化や気づき等は、すぐに看護師に報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、支援方法に関する情報を医療機関に提供し、また職員は、出来る限りお見舞いに行き、その都度、病院関係者に現在の状態をお訊きし、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末ケアの説明を行い、重度化した場合は、主治医や家族、職員との話し合いを持っている。	看取りに取り組んでいる事業所である。利用開始時に文書を渡し説明し、意向を確認して同意を得ている。終末期に入った時点で医師と家族を交えて話し合い、家族の気持ちに変化がある度に話し合いを行っている。利用者の状況も考慮し、入院か事業所での看取りを選択してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、掲示している。年に1度、消防署の職員を招き、応急手当や緊急時対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、地域の消防団との関わりを持ち、自治会関係者との関わりの中で近隣周辺の方にも緊急時での支援協力を呼びかけています。	6月と11月に自主訓練を行っている。内一回は夜間想定である。市の防災管理課の職員を事業所に招き、地域のハザードマップを作成し、利用者の安全な避難について検討している。ただし、この1年は消防署の立ち合いがなく、また地域との連携や災害時の備蓄などもこれからである。	消防署立ち合いのもと、避難訓練を実施することで、災害時に利用者を安全に避難させることができるよう指導を仰ぐことが望まれる。また、地域との連携、災害時の備蓄についても早期の取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄時の誘導は、羞恥心に配慮した声掛け、誘導を行っている。	管理者は職員に対して、利用者と馴れ合いにならず、介護のプロとして意識を持ち声かけや支援に努めることを指導している。職員はトイレのドアの開閉や排泄時の見守る位置などに配慮し、利用者が不穏な場合は穏やかな口調で声かけするなど対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にし、自己決定できるような働きかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言葉や行動、表情などに注意し、ご本人の希望に添える様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、毎日、夜勤者が洋服を選んで、着て頂いている。月1回は、出張理・美容室にきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る時、入居者に食べたいものや好きなものを尋ねたりして、取り入れている。	一週間単位で献立を立て、料理担当の職員が調理している。各ユニットで一人職員が同じ食事を食べ、他の職員は弁当持参で利用者と会話しながら同じ食卓を囲み楽しみな時間となっている。利用者に合わせた刻み、トロミ、ミキサー食などを提供し、外食は近くの飲食店に出かけるなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、毎日チェックし、栄養バランスも考えて、職員が全員で交代しながら献立をたてている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者の口腔ケアを介助している。口腔状態は把握されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者のタイミングに合わせ、声かけをして誘導を行っている。	おむつから布パンツに改善した例がある。排泄チェック表を付けてパターンを把握しており、声をかけて促している。夜間帯も2時間おきに声をかけて排泄の支援を行っている。数人の利用者は自立しているため、布パンツを使用し、自身でトイレに行っており職員はさりげなく見守り支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で、排泄管理を確実にいき、Dr、や看護師にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者が強く拒否した時以外、声掛けし楽しく入浴できるような雰囲気づくりを心掛けている。	日曜日以外は入浴できるよう準備しており、利用者は週に2回は入浴している。車椅子で立位困難な利用者は足湯に浸かりながらシャワー浴で対応している。季節にはしょうぶ湯を提供し、夏場はシャワーで清潔保持に努めている。また、シャンプーなどは好みのものを使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調に応じて休息を取っていただき、安心して休める環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、一包化し、服薬時は三か所で確認してから服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみを見つけ、喜びに繋げていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者によっては、外出が困難な方もおられるが、家族の協力を得ながら外出出来る様、支援している。	季節には桜やつじなどの花見に出かけ、近隣の公園や海岸、水族館にドライブしている。気分転換に買い物に出かけることもあり、戸外の空気を味わうために屋上での外気浴の支援を行っている。ただし、日常的な外出は職員数などから困難であるため、行えていない。	立地環境や職員数など物理的な課題はあるが、利用者本位の支援の立場から戸外の空気、風景など楽しめるよう日常的に散歩に出かけるための検討、工夫が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの購入は施設で管理しているが、外出時の買い物などの支払いは、ご自分で出来る様、お金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望するときには、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所は、温度管理をし、季節を感じさせる花や壁面を飾っている。ソファを置き入居者同士、家族の面会時にもゆっくり話ができるようにしている。	廊下やリビングには、おお空新聞や小学校からの便り、外出時の利用者の写真などが飾られており、和やかな雰囲気となっている。利用者はそれぞれに居場所があり、のんびりと過ごしている。職員が朝から掃除を行い、居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の場所で、談話されたり歌を歌ったり、一人ひとり自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や洋服、本人の好みそうなものを家族が選り持ちこられ、本人が安心して生活できるよう工夫している。	ソファや椅子、テレビやラジオ、ピアノやタンスなど利用者の好みや馴染みの家具、調度品があり、個性ある居室となっている。モップがけは毎朝職員が行い、日曜日は家具の拭き掃除を行っている。家族の協力を得ながら、写真を張り替えるなど、本人が居心地よく過ごせる居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室に入居者名を表示し、本人に分かりやすいようにしている。施設内部は、バリアフリーでドアは引き戸にして、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院 2F満天		
事業所名	グループホーム『おお空』		
所在地	長崎県長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	平成24年9月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型GHの事業所として自治会・近隣の学校・保育園・同業者の交流を深めて少しずつでありますが高齢化時代でのGHの役目を地域に溶け込むように努力しています。今後も更に利用者が地域と関われる住みよい環境を目指して各関係者の支援を仰ぎ全職員で努力して取り組んでいきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いっしょに・いつも・いつまでも」基本理念は職員に日頃より利用者が生活するうえで、寂しい思いをさせないように末永く楽しく過ごせるように取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の関係者との関わりは地域での催し物などのお誘いを受けたり御招待したり定期的な関わりなど地域交流をたやさないように参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での入居者生活状況の報告・自治会が行う除草作業の奉仕活動で交流支援に努めて参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での利用者生活状況の変化に伴う取組状況の報告。質疑応答での各構成委員の助言を参考に入居者のサービス提供に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告の提出書類に関する質問及び、介護関係の問合せ、運営推進会議での参加呼びかけを働きかけています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護支援に取り組む安全性が損なわれる場合、職員は、利用者の安全の確保優先し共有的情報で関わり理解対応している。その際、ケアマネが御家族に説明し同意書にサインを頂いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する心ない言葉かけ、身体介護で見過ごせない対応は職員全員で自制を促し必要である場合、緊急会議を開催して取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援事業者主催による勉強会への参加したり現状での問題点や関わり方を尋ねたりしています。今後も機会を設け勉強会に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における御家族の御意見・御質問など契約事項の説明を交え理解できるように、御家族様が指定される時間に余裕を持って説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年はアンケート調査実施して御家族の御意見を参考に状況に合った支援体制を築き上げています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的に常勤者会議を行い現場職員の提案・要望など汲み取り、協議した結果は理事長に報告し運営面における意見・改善点があれば話合いの機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、理事長出席で職員全体会議を開催し運営的な面を含め、現状における職員の考え・提案を反映できるように協議をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある度に興味ある研修テーマを回欄で報告し研修・勉強会など受講を促しています。受講に対しての勤務体制の配慮は、優先的にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域間の交流は催し物にお誘いを受けたり、御招待したりしています。勉強会では、市GH協議会に所属しブロック会では情報交流と現場職員の事例報告の活動も取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本氏が困っている改善すべき事など職員で話し合い提案されるサービス提供は本氏の気持ちに合わせ、御家族へケアマネが窓口となって実施されています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の主訴は何処にあるのか理解に努め利用者の現状における生活状況を報告する。又、御家族が気軽に、職員に御相談できる雰囲気作りを取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃より御家族との情報交換に努め、本氏の体力・気持ち・性格的な面を見極め、必要に応じて支援対応しています。連携して当ホームは、外科系医療法人でのリハビリ機材を備えたサービス支援も可能です。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活パターンが単調にならないように職員は利用者の性格をそれぞれ把握し持ち場・持ち場の関わりを大切に、自尊心を損ねないように職員は努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活状況を面会時・電話などでケアマネ・管理者より御家族に報告しています。それに対して御家族の意向を踏まえ協力可能な支援・協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方・幼なじみへの面会は御家族への報告での了解・御本人の現在の気持ちを配慮し支援しています。外出・宿泊など生活状況を説明して支援協力しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本氏の力量に合わせ体力の衰えのある利用者の方にも入居者同士で声かけ、職員による状況の説明をして、軽作業・レクリエーション参加して頂き関わりをもたせ孤立しない支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の都合で契約終了され他の施設に行かれた利用者の面会。亡くなられた情報を知ってのお葬式での参列など職員できる範囲での支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本氏の思い通りの気持ちに沿いながら支援協力を心がけています。外出支援・生活支援協力その時の体調を考慮した可能な範囲で行います。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の暮らしの関わりの中で、現状における本氏の趣味に対する気持ちを絶やさない支援協力を気軽に歌・将棋・詩吟を取入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で負担がかからない範囲で少しでも生活の張りが保てるように軽作業を各利用者の力量に合わせ、支援協力を繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議でケアに対する職員間の話し合いで出される提案を協議しケアマネが御家族と相談して共有情報のもとで介護計画を実行しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・生活ケース・看護記録を職員は情報共有を図り、個別に対する情報は御家族対応記録を共有し実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能の衰えに対するケア的な支援サービスは、職員主体で検討し院長・看護師と連携し柔軟な方向で各関係者・御家族と連携を図り支援協力しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のレベルに合わせて地域交流での草むしり・夏のお祭り参加、ボランティア支援でのコーラス・グループをお招きして地域との関わりを大切に支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望される御家族の意向を汲み取り、当ホームの院長と御家族が希望される医師と情報の交換を密に図り利用者・御家族・混乱が起きないように支援協力をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の利用者への体調の変化での気付きは、看護職員に申し出るようにしています。院長に状況報告を行い看護職員指示にて対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院への不安と一人での寂しさなどホームへの関わりが薄れないように職員は連携をとり合いお見舞い行くように心がけています。ケース・ワーカーの協力支援を得ているところもあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケア指針での同意・終末ケアに対する御家族と理事長との最終判断による話合の取決めなど文章化しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル事項の対応を職員に義務付け、見やすい場所への掲示している。定期的に行われる緊急時避難訓練での救急救命処置での訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、東北地方での未曾有の大地震の教訓から当ホームでも地域の自治会関係者に災害時の対策として勉強会を呼びかけるとなど年末には県の防災管理課の指導教育を受けました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を損ねない言葉使いなど職員は馴れ馴れしい言葉使い・軽率な振る舞いなど職員間で注意を払い、必要である場合、問題提議をして協議改善をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本氏の真意を見極め、その時の気分・体調を考慮し、入浴・外出・レクへの参加など自己決定を促す働きはしていますが無理強いはしません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先で孤立させないように声かけ・会話をできる環境を大切にしています。利用者主体を心がけて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日過ごされる中にも朝・夕の寒暖差で汗をかいたり食事で衣類を汚す事もあり職員は、入居者への衣類のこだわり・整容に配慮しています、ホームに定期的に理美容の出張をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・後かたづけの関わりを同じ入居者ばかりにならないように工夫したり食事前の嚥下体操ではユーモアを交えながら職員一緒に楽しく食事するように支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の確保はそれぞれの利用者の摂取量を職員は理解して、状態に合わせ嚥下食品を併用して味・好みを考え水分摂取に努めている。食事は状況に応じた、形状を工夫して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの利用者の力に応じた対応で口腔ケアをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り自力歩行でのトイレ誘導を促しているが、歩行困難の利用者には尿意訴えによる職員二人誘導で行います。誘導不可能は排泄パターンを見極め不必要なおむつ交換をしないように心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は排泄・排便チェック表で個々に応じて排泄のパターンを職員全員で共有し理解している。入浴・軽い運動・お腹のマッサージするなど自力での排便を促がしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の利用は平等になるように対応しています。利用者の体調・強い拒否など無理強いで入浴は行わず対応表をお見せして気持ちよく入浴して頂ける様に支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて入眠に対する習慣性を職員は情報を共有し連携しながら夜間に安心して眠られる様に取り組んでいます。昼間の不穏・混乱を夜に持ち越さない配慮をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を利用者ごとに綴っており薬変更時には必ず目的を看護申し送りで確認して内服しています。その後、経過観察をして情報共有を図り支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて役割分担をもって洗濯物干し・ゴミ捨て・食事の準備・後かたづけをして頂き、くつろがれる時は新聞を読まれたり、会話を楽しまれたり趣味の将棋・詩吟・歌などで気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	河川に添って広大な海があり団地内にも季節を感じる公園があり全員外出する機会をできる限り継続する努力をしています。催し物での外出時には御家族にも一声かけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に対する強い要望がある場合、御家族の承諾得て額を決めて本人が管理していましたが現在、所持金の管理は生活必需品に対しての預り金をホームが管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方からの安否の電話連絡での取次、誕生日プレゼント・敬老の日のお祝いの贈答品の橋渡しなどしています。本氏に説明して御家族へ先方のお名前を報告しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理と昼間の明るさをなるべく遮らないように自然光で過ごせるように心がけ居間・廊下・壁など広々とした空間を重視し季節を感じて入居者との話題ができる四季の花を生けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた場所以外に、事務所でゆっくりお話を聞いたりソファでリラックスできるように傾聴するなど時には、海が見える屋上でも対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族面会時に話題となる昔の懐かしい思い出の写真、使い慣れた愛用のダンス・テーブルなど殺風景にならないような生活感ある工夫を職員は考えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内でのトイレ・お風呂・居室と間違わないように表示はそれぞれ工夫をしています。居室は、花の種類で表示し識別している。		